



# 園だより9月号



令和4年9月1日  
 社会福祉法人 愛光会  
 ハローこども園  
 浜松市南区下江町5-2-2番地  
 電話(053)425-5586



## ☆お知らせ☆



### ◎運動会について

10月1日(土)に予定している今年度の運動会ですが、コロナウィルス感染症により中止の可能性や、大幅に変更しての開催もあると思います。詳しくは、運動会のお手紙を配布しますので、よくお読み下さい。

### ◎行事の中止について

16日に予定されていた祖父母交流会ですが、コロナウィルス感染防止のため中止させていただきます。

### ◎毎朝の検温表

今年度のプール遊びは、8月31日(火)で終了となります。以上児の朝の検温ですが、プールカードも終了になりましたので以前と同じように玄関の各クラスの名簿に記入をお願いします。未満児は連絡帳への記入をお願いします。

### ◎引き取り訓練について

お迎えの際に緊急時引き取りカードを確認させていただきますので、緊急引き取りカードを必ず持参してください。

### ◎実践研修研究協力について

当園では「健康な心と体を育む環境作りをめざして」をテーマにして職員が実践研究に取り組んでいます。そこでご指導して頂いている聖隷クリストファー大学教授和久田佳代先生の方から研究協力の要請があり以上児子ども達の運動機能の測定を行う事になりました。何か不都合がありましたら事務所までお願いします。

## 9月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
				1 総合防災訓練	2	3
4	5 園外保育の日 (お弁当持参)	6 身体測定 (めだか・うさぎ)	7	8 音楽教室 身体測定 (りす・つき)	9 身体測定 (ひよこ・ほし) 英語で遊ぼう (つき)	10 前期のまとめ 職員会議
11	12 体操教室	13	14 親子ひろば	15 音楽教室 園長会	16	17
18	19 敬老の日	20	21	22 以上児クラス 懇談会 運動会リハーサル	23 秋分の日	24
25	26 体操教室	27 火災避難訓練	28 保育料口座振替引落日	29	30	

# ハローこども園の学び

～就学後につながる学びを～

8月号では、3年生で初めて出会う理科の学習の中で「昆虫」について取り上げ、園でも、たまご・幼虫・サナギ・成虫というチョウの変容について子どもたちが気づく経験の後、チョウを旅立たせた様子を紹介させていただきました。今回は、さらにカブトムシの変容にも視点を当てて、この夏の子供たちと身近な生き物たちのかかわりや命についての気づきについても紹介します。就学前のこうした経験は、3年生の理科における、「たまご・生まれたばかりの幼虫・育った幼虫・サナギ」を一匹の生き物の記録として比較しながら、その形の変化に気づくといった学習につながっています。その後、4年生では「生命」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「生命の連続性」「生物と環境の関わり」についての学習に発展していきます。 宮野恵理子

## トノサマガエル

春には、散歩に出かけては、オタマジャクシを捕まえてきていた子供たちですが、夏になると園庭には成長したカエルたちが跳び回っています。子供たちは、このカエルを捕まえるのに夢中です。初めは、たくさん捕まえて、数えては数を競っていましたが、最近ではトノサマガエルを捕まえることが子供たちの中でのステータスです。



## カブトムシ

今年も、昨年度の卒園児からつき組さんが引き継いだカブトムシが成虫になりました。その後死んでしまったものもいましたが、家で育てたカブトムシを持ってきてくれた友達もあり、つがい大切に育て、また、卵が生まれました。



自由遊びの中での子供たちの会話を聞いていると、上記の会話のような「生き物が住む場所」や「食べ物」についてだけでなく、「様々な生き物の足の本数」「セミの鳴き声や鳴き方」「秋の虫の鳴き声」など、身近な生き物の様子をとてもよく見ていることが分かります。子供たちは、日常の遊びの中で身近な生き物たちの体のつくりや生きる環境、季節の変化に伴う活動や鳴き声の変化など多くのことに気づいているのです。

こうした幼児期の生活体験は、小学校中学年から高学年にかけての「季節による生き物たちの活動の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するとともに、暖かい季節、寒い季節などによっての動物の活動の違いを比べる」といった学習にもつながっていきます。

つき組さんは、昨年度のつき組さんから引き継いで、「卵→幼虫→蛹→成虫」と育て、大切に世話してきました。そして、夏の中ごろから終わりにはカブトムシの死と直面することになりましたが、しっかり卵を産んで、命を残してくれました。こうした幼児期の経験は、5年生の理科のねらいの一つである「生命を尊重する態度を育て、生命の連続性についての見方や考え方をもつことができる」ことへの基盤となっています。

## ハローこども園の学び

～就学後につながる学びを～

小学校に入学した後、3年生になると子供たちは、理科の学習で初めて「昆虫」という言葉に出会います。それまで、生活科を通して触れあってきた「虫」たちが「昆虫」とそうでないものに分けられることを学びます。しかしながら、虫との関りは子供によって大きな経験の差があります。先月号で生活科の学習で身近な生き物とふれあう単元があることを書かせていただきましたが、週2時間の生活科の中のほんの一部の単元の中では、十分な経験ができるとは限りません。また、すでに虫に対していやなイメージを持っている子供もいます。ですから、幼児期から身近な生き物に興味を持って、関わってきた子供とそうでない子供とでは、経験値に大きな差があるように感じます。

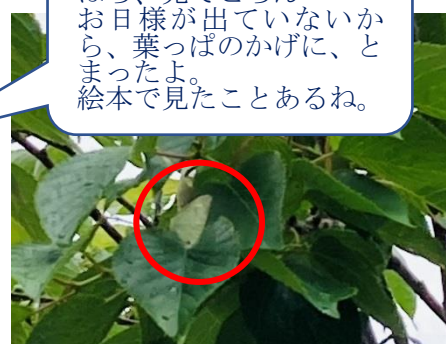
3年生の理科の最初の昆虫の教材としてモンシロチョウ、アゲハチョウが取り上げられています。園でも、春から初夏にかけて毎年チョウを旅立たせたり、カブトムシをふ化させたりしています。

今月号は、子供たちと昆虫とのふれあいの様子を紹介します。

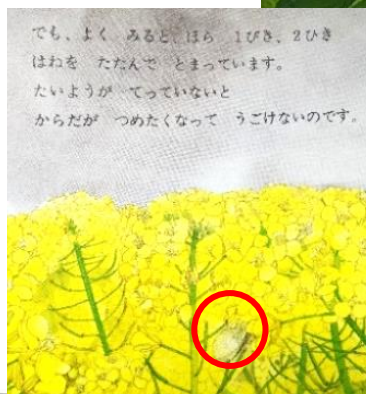
### モンシロチョウ



ほら、見てごらん  
お日様が出ていないから、葉っぱのかげに、とまったよ。  
絵本で見たことあるね。



うさぎ組の子供たちが、卵から育ててふ化したモンシロチョウを旅立させる日は、小雨でした。モンシロチョウは、虫ごから飛び立つと、すぐに近くの木の葉の陰に身を寄せ、羽をたたんでとまりました。子供たちは、「モンシロチョウは、太陽が照っていない日には羽をたたんでとまっている。」ことを絵本で見たことがあったため、「雨だからだね。」「寒いね。」とモンシロチョウを見送りました。



### アゲハチョウ



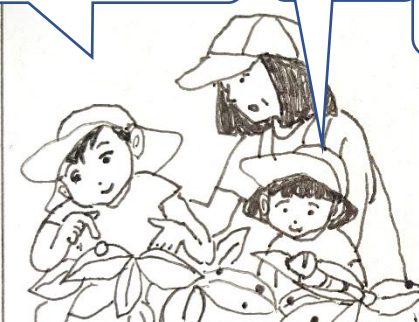
以上児は、毎年何羽ものアゲハチョウを旅立させています。今年も数羽のアゲハチョウがふ化し、旅立っていきました。

見て！アゲハの卵だ！

幼虫もいる！

違うよ。先生！これは青虫のウンチだよ

あれ？この黒いのは卵かしら



3年生の昆虫の学習では、自分たちが見つけたチョウのたまごを教室に持ち帰り、飼育に取り組み、モンシロチョウやアゲハチョウを通して、昆虫の体の仕組みやチョウの成長について学んでいきます。

ところが、なかなか卵を見つけることができない子供が少なくありません。校内には、子供たちの学習のためにキャベツやアブラナ、柑橘類の木等を植えてあるため、卵がないわけではありません。卵を見たことがない子供が多いため、なかなか見つけることができず、「先生、卵見つけた！」とアブラムシを持ってくる子供すらいます。そうしたことを思い出すと、園の子供たちは、当たり前のように卵や幼虫を見つけ、成長する姿をよく観察しています。5月の終り頃だったか、現在3年生になった卒園児が遊びに来た際、「何の教科が好き？」と尋ねた際、「理科」と「体育」と答えました。3年生になって、初めて学ぶ理科で、「モンシロチョウの学習が楽しい。」と話してくれる様子を見ながら、園での経験が生きていることを嬉しく思いました。ちなみに上記で紹介したエピソードでアゲハの卵を産み付けたみかんの木は、彼らがつき組の時に給食で食べたみかんの種を植えたものが生長した木です。そのみかんの木には、毎年のようにアゲハチョウが卵を産みに来るのです。

# ハローこども園の学び

## ～就学後につながる学びを～

小学校低学年の教科の一つに「生活科」があります。生活科が誕生するまでは、低学年にも社会科と理科がありました。生活科誕生の背景には以下のような2つの要因があったと考えられます。1つ目として、児童の発達上の特徴<小1プロブレム> 幼児教育においては、遊びが学びの中心になっており、子ども達は、総合的な学びをしています。就学していきなり教科学習中心になると、子ども達は段差を感じ、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行が難しいということです。2つ目は、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成のため、低学年においては教師の説明を中心とした学習ではなく、児童が主体的に、具体的かつ総合的な活動を通して、知識、技能の獲得や習慣を身につける必要があります。日々、身近な生き物と戯れたり野菜を収穫して食べたり等、楽しんでいるだけに見えるハローこども園での活動の中にも、生活科や理科・社会の素地となるような学びが多く組み込まれています。6月号・7月号2回に渡って、1、2年生の生活科「生き物」と、3年生の理科の「昆虫」にかかわる単元に視点を当てて、園での活動を紹介します。

宮野恵理子

## ダンゴムシ

つき組の子供たちは、ダンゴムシが大好きで、世話をしたり、手に乗せて戯れたりしています。ダンゴムシと遊ぶ中で、ダンゴムシが暮らす環境や産卵等、様々な生活の様子に気づいていきます。子供たちの気づきは子供たちの絵の中にも表れています。また、お楽しみ保育でのカマキリ先生からのミッション「グループごとにダンゴムシの雄3匹、卵を持っている雌3匹見つけよ。」に、全ての子供たちがクリアしました。

先生、このダンゴムシ何してるの？

結婚して、卵作ってるんだよ。

へえ、こっちの子たちも、結婚させようっと。

メスの上にオスをのせようとするAくん

見て！お腹に卵がいるんだよ。

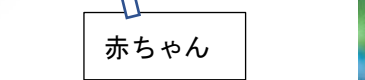
子供たちは、つき組で育てているダンゴムシの雌のお腹を広げて、卵を見せてくれました。



卵



雌には模様が！



赤ちゃん



人参が好き！

## カタツムリ

雨上がりのお散歩で、大きなカタツムリを見つけてきたりす組さん。毎日観察し、食べるものによってウンチの色が変わることを発見し、喜んでいました。大人も一緒に観察しながら初めて知ったことがありました。

なんでカタツムリのウンチが口のところにあるの？



かたつむりのひみつ



りす組のTくんが、見せてくれた絵本には、わたしが疑問に思ったことに対する答えが描かれていました。

絵本によりカタツムリのおしりの穴は顔の近くにあり、うんちを出した後、足を使っておりたたむという事実を初めて知りました。

1、2年生の生活科の単元の中には、身近な生き物をテーマとした学習があります。

単元の目標は、「生き物やそれらの育つ場所、変化の様子に関心をもって、親しんだり大切にしたりすることができること」や「生き物が住んでいる場所の様子や生き物の変化の様子など、気付いたことを表現することができること」「生き物の世話の仕方が分かり、生き物も人間と同じように『いのち』があることや成長していることに気付くこと」などです。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容の中にも「身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。」とあり、具体的な目標は示されていませんが、生活科でめざす内容と方向は変わりません。園での活動でもダンゴムシやカタツムリなど、身近な生き物と関わる中で、子供たちは生き物の様子や育つ環境、世話の仕方等、様々なことに気づきますが、幼児期には、1年生の生活科での子供には見られない姿があることを感じています。それは、幼児期の「気づき」には、この時期にしかないものの見方や感じ方からか、思いもよらぬ視点や発想からのより豊かな「気づき」があるということです。

よく、脳の90%は、乳幼児期(0～5歳児)に作られると聞きますが、日々子供たちの発見や創造力には、驚かされることばかりです。

## ～就学後につながる学びを～

情報化が進展する状況で、子ども達には、多くの情報の中から自分に必要なものを取捨選択し、自分の考えを正確にまとめ分かりやすく発信する能力が求められています。「特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」が重視されています。

先月の園便りでも、説明文についてお話させていただきましたが、小学校の国語科では多くの説明文が教科書教材として載っています。説明文の読み取りを通して文章の読解力や内容についての思考力を深め自分の考えを表現する力を身に付けるためです。ところが、親しみやすい物語文に比べ「説明文は、よくわからない。」「難しい。」という子供が少なくないことも事実です。

説明文に対する知的好奇心や興味関心が喚起されると、子供たちは文章を主体的に読み取ろうとします。

園の教育課程では、ハローこども園の子供たちが、小学生になって説明文に出会ったとき、書かれている内容に興味を持ったり知りたい情報があることを感じたりできるような豊かな体験を積み重ねていけるような計画を立てていきたいと思っています。

宮野恵理子

## 味噌づくり

## 姿を変える食べ物

## ジャムづくり

まず、森先生から子供のころの食べ物のお話をききました。

大豆から、できている食べ物には、何があるか知っていますか？

おみそ

なっとう

おとうふ

きなこ



## ハローこども園の学び



絵本は、子供たちにとって情報の宝庫です。絵本から得た知識から、森先生の難しい質問にも答えることができました。

大きくなって！

きな粉みたい！

お豆じゃなくなった！



前日、水につけておいた大豆を、煮ました。

しっかりつぶして、塩と麴をいれました。

空気が抜けるように、味噌玉を投げて・・・

ピザの生地みたいみたい！

お味噌をタッパーに詰めた後、森先生からみんなに質問が・・・

電気がこないよ。

段ボールで、家をつくれれば？

窓を作れば風が入るね。

暗くて、風通しがよくて、涼しいところに置いておかないと、おいしいお味噌になりません。どこに、置けばよいですか？

押し入れ！

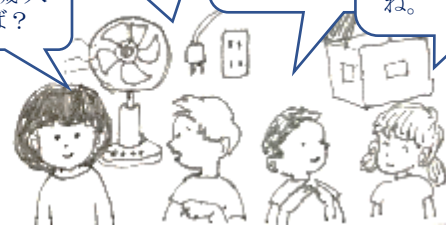
風が通らないよ。

扇風機入れば？



タッパーの中で平らにして、...

みんなで、意見を出し合い、お味噌の段ボールハウスを作ることになりました



## 国語科

小学校3年生の国語の教科書の中に、「すがたをかえる大豆」という教材があります。筆者の説明のしかたの工夫を見付け、説明する言語活動が中心の学習です。読み取った説明文の文章構成や接続後の使い方などを生かし、自分で調べたことを説明文に書いたり、わかりやすく説明したりする活動へとつながっていきます。ですから、今回の味噌づくり体験は、将来的に説明文への興味関心につながるだけでなく、味噌をつくるための工夫を話し合ったり、味噌づくりの手順を説明したりする言語活動自体にも深い意義があります。

うさぎ組さんがジャム作りを見見て、イチゴのジャムがどのようにできたか言葉で説明することも大切な言語活動です。

りす組のころから眺めていた南園庭のイチゴが実り、真理先生と佑奈先生がジャムにしてくれました。イチゴがジャムになることを知らなかった子供も、ジャムに変化する様子を見るのが初めての子供も、ジャムに変身するイチゴに驚き、その後ジャムがどうやってできたか、説明してくれました。



お砂糖入れたらお鍋で焼いて・・・

とけちゃった

イチゴのにおいがする。

あまい！



すっぱい！

おいしい！

## ～就学後につながる学びを～

浜松市では乳幼児の保育・幼児教育の推進においてその重要性を十分に理解し、質の高い保育・幼児教育を共通に推進するとともに、**幼児期の教育と小学校教育との連続性**を意識して、子供たちにこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を育むことを大切にしています。また、幼児期に育てたい10の姿を、一人一人の発達の特性を踏まえて**必要な経験を積み重ねることや、遊びや生活を通して総合的に育て**いくことを重要視しています。

わたしが、はじめてハローこども園に勤務したばかりの頃、保育教諭に「小学校での経験を通して、幼児期の教育・保育に最も必要だと思われることは何ですか。」と尋ねられ、「自然や遊びを介した十分な体験が最も必要。」と答えました。

それは、小学校において教科の授業を進める際、子供たちの経験不足から、学習が深まっていけないことを痛感していたからです。もっと子供たちが主体的に学びを深め、広げていってほしいという思いから、時間が許す限り、学習内容に即した経験をさせたいと指導計画を立てましたが、時間がいくらあっても足りませんでした。十分な体験をさせていたのでは、その学年で習得させなければならない学習内容を終えることはできません。

ですから、就学前に、十分な体験を積み重ねてきていてこそ、就学後の学習において真の力が身についていくものだと考えています。今年度は、園での自然体験や遊びが具体的にどんな教科学習につながっていくのかを、例を上げてお話していこうと思います。

### タンポポ

宮野恵理子

先日お散歩から帰ってきた子供たちは、タンポポの花や綿毛を花束にして持ち帰ってきました。富屋の公園の木の下に、タンポポが一面に咲いていたそうです。園内でも、タンポポの綿毛を見つけると、フーッと息を吹きかけて綿毛を飛ばす子供たち。

これは遠くへ飛んでって**地面**におちて、草がはえて、タンポポになるんだよ。



タンポポの綿毛ね。あれ**種**なんだって。枯れても**茎が伸びてフー**って、やると いろんなとこにとんで落ちて、タンポポになるんだよ。

綿毛に種がついて、それが**風にとば**されて地面に落ちて、はっばが出て、タンポポが咲くんだよ。だから、いろんなところにタンポポが咲いているんだよ。

タンポポが枯れて、綿毛になって種がとんで車のないところに種が落ちて花が咲いて、また枯れて綿毛になって**いろんなところにとんで...**



2歳児のTさんが綿毛を吹く姿を見てつき組の子供が、説明をしてくれました。感心に思っ、何から得た知識か尋ねると、先生に絵本を読んでもらったとのことでした。

たね!

たねのベット



地面に穴を掘り、タンポポをまき、優しく土の布団をかけている子供もいます。

そこで、つき組の他の子供たちにもタンポポについて尋ねてみました。表現の仕方はそれぞれですが、遊びの中の実体験と絵本で得た知識をもとに、どの子も順序立ててわかりやすく説明してくれました。その説明の中には、「地面」「風にとばされて」「種がいろいろなところにとぶ」「茎が伸びる」など、子供同士の日常の会話では、めったに使わないような言葉が出てきます。これこそ、絵本の力です。そして実体験があってこそ、子供たちは絵本に興味を持ち、それが知識となっていきます。

### 国語科

小学校の2年生の国語の教科書の中に、もう数十年にわたり載っている「たんぽぽのちえ」という教材があります。時間的な順序や理由を表す言葉に着目し、背を伸ばしたり、綿毛が風にあたり種を遠くまで飛ばしたりするタンポポの知恵について読み取る説明文です。

「子供たちがタンポポの綿毛を飛ばして遊ぶ」姿は、大人から見ると何気なく見過ごしてしまう行為かもしれませんが、けれども、そのとき得た知識と体験は、小学生になってからの学習へ興味・関心につながり、学習内容の理解をより深め、ひろげるための経験として残っています。